

一般社団法人 千葉県歯科医師会主催  
千葉県歯科医学会令和5年度学術大会  
歯科技工士会講演

**演者氏名**

一般社団法人 千葉県歯科技工士会 田村 和生

**演題**

「歯科技工士のタスクシェア/シフトを考える」  
～顎位の変化に対するスプリントの製作から～

**抄録**

現在、一般社団法人千葉県歯科医師会では「歯科技工士の人材確保対策事業」を厚生労働省より委託を受けて行っている。その中でも、令和3年度より「シンポジウム」を数度開催し、歯科技工士が歯科医師の「診療補助」を出来るようにするべきとの意見が出ている。

これからの超高齢化時代を迎えるにあたり、適切で今よりさらに高度な治療を短時間・短期間に施さなければならない場合がある。

これまでもチーム医療として「歯科医師」「歯科衛生士」「歯科助手」と歯科技工士が一丸となって取り組んでいたと思う。

しかしながら、歯科技工士は診療に携われない事から必要な資料、そして分析が行えないことが少なくない。そこで院長の監督の下、行った患者の資料採得、分析、治療方針の提案などをお話したい。

臨床例として、高齢者のかみ合わせ変化に伴うスプリント製作を例にとり、歯科技工士の診療補助の一例を垣間見て頂ければ幸いである。